

世界 上位 シエア の 車載 スピーカー

素材はヒラキン発リサイクルPP

2015年2月19日、ヒラキンは、パナソニック株式会社の社内分社であるオートモーティブ＆インダストリアルシステムズ社（AIS社機構部品事業部）から、感謝状を贈られました。同社の製品である車載スピーカーは、いま世界中から高い評価を得て販売を伸ばしています。その背景にヒラキンの提供する高品質のリサイクル原料があるということが、感謝状の理由です。

AIS社の車載スピーカーは国内、海外の主要自動車メーカーに採用されており、グローバルで上位のシェアを確保している製品。

その業績によって「競争力が強く、業界でナンバーワンのシェアを取れる商品」を認定する、パナソニック内の「ダントツトッププロジェクト」に2011年から2年連続で選ばれました。

自動車業界では、使用する樹脂の16パーセント以上にリサイクル材を使用しなければならない規制があり、100パーセントリサイクル材とうたえるこのスピーカーを使うと、車全体のリサイクル材使用率が上がり、自動車メーカーにとって利点が大きいのだとか。

「何より、リサイクルPPは、信頼性要求

が厳しい車載用スピーカーに適合し、なお

かつ、資源循環の意味でも、他社との差別化がでています。AIS社としては、ヒラキンさんのリサイクル原料がなければ、「このスピーカーを作ることができない。今後ともよろしくお願ひします、という気持ちを込めて感謝状を贈ります」とAIS社機構部品事業部アコースティックプロダクツディビジョン・中川亨ディビジョン長にねぎらっていただきました。

「なんと世界 上位のシエアと聞いて、びっくり！非常に光榮なことです」。当社代表取締役社長の平林実をはじめ、一同が大きな喜びを味わいました。



ゴールは永遠にありません。これからも世の中のニーズにこたえられるよう、挑み続けます

技術開発部 部長 金光 憲次



感謝状を囲んで喜びの、リサイクルファーム御津ミックスプラスチック選別プラントの面々

高品質の原料を 安価に提供



ヒラキンのリサイクル素材を使った、世界上位シェアの車載スピーカー

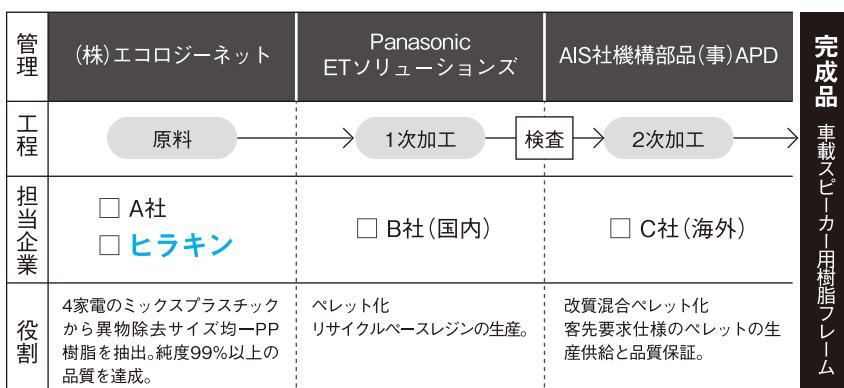
車載スピーカーの製造過程でヒラキンが担うのは、表にあるように、原料生産の部分です。リサイクルファーム御津の樹脂選別プラントで、ミックスプラスチックからPP樹脂を選別。純度99・8パーセントのリサイクル原料に仕上げ、1次加工を担う会社に出荷します。

「競争力が強く、業界でナンバーワンのシェアを取れる商品」のために欠かせないのは、純度の高いリサイクル原料を市況変動に影響無く提供する、ということでした。

ミックスプラスチック選別プラントでは微妙な比重差を利用して高精度に選別を行い、純度の高いリサイクル原料を作り出します。

ミックスプラスチックをマテリアルリサイクルする装置を設置し、家電メーカーと共に技術開発に取り組んで試行錯誤を積み重ねていくなかで培われたノウハウといえます。

表 資源循環リサイクルPPフロー



不可能といわれた ミックスプラスチックの選別に 挑み続けてきた十数年

家電リサイクル法が施行された当時、ミックスプラスチックから素材単位に選別することは不可能といわれ、「ミ」として処理されていました。そこを、ヒラキンは持前の「もつたいない精神」で、ミックスプラスチックの資源化にチャレンジ。

「リサイクルのプラスチックなんか使えないわけがない!」とされた時代、技術開発部を中心に、いかにして汚れや不純物を取り除き、純度と品質を上げていくか。日々、粘り強く取り組み、家電メーカーの知恵や力を借りて、使えるか使えないかの実地検証を繰り返し、評価をいただきながら、ハードルを一つひとつ乗り越えてきました。

「燃料にするサーマルリサイクルもありますが、やはり冷蔵庫は冷蔵庫に、洗濯機は洗濯機にと、元の形に戻すことがリサイクルの理想だと思います。そのために、より高品質なリサイクル原料を、低コストで生産

し、なおかつ、工程を必要最小限にとどめる工夫を施して低コスト化を実現。プラスチック原料の値段がバージンと比べて競争力のある価格になり、バージンPP並みの清潔度のプラスチックをマテリアルリサイクルする装置を設置し、家電メーカーと共に技術開発に取り組んで試行錯誤を積み重ねていくなかで培われたノウハウといえます。

ミックスプラスチックにこだわるよう、メーカーさんに使ってもらえるようにする。世の中のニーズにこだわらざるよう、あきらめずに挑み続けたい。仕事はめちゃくちゃ楽しいです」

技術開発部部長・金光憲次は目を輝かせて語ります。

MESSAGE

旺盛なチャレンジ精神と柔軟な対応に感謝

ヒラキンさんとの付き合いは10年以上になります。私の印象は、「若い、チャレンジ精神が旺盛、情熱がある、対応が柔軟」。家電専用工場として、環境に対する配慮、労働安全基準や粉じん・騒音対策など、間違いくなくトップレベルです。家電リサイクル法が施行された当時から、今の社長(当時副社長)の平林実さんに家電メーカー側の状況や要望を深い部分で理解していただき、いろいろな意味で思い切った対応を取っていただいたのは非常に大きかったと思います。関西方面への拡大もありますし、今後も密に連携をとって共に発展していくならと思います。

株式会社エコロジーネット 技術担当審議役 澤坂 幸男



製品から製品へ—2004年、プラスチックマテリアルリサイクルの第1号となった洗濯機の部品